

## 「高度医療・人材育成拠点」の整備に向けた取組状況について

### 1 要旨・目的

全国トップレベルの高度医療の提供や医療人材の育成等の機能を持つ「高度医療・人材育成拠点」（新病院）の整備に向け、令和5年9月に策定（令和7年10月に変更）した「高度医療・人材育成拠点基本計画」に基づく新病院の医療機能や施設整備等に関する取組状況等について報告する。

### 2 現状・背景

- (1) 高齢化に伴って、医療ニーズが高まる一方で、労働力人口が減少し、医療を支える人的資源が縮小するとともに、多数の症例や研修体制が充実している大都市圏の病院に若手医師や研修医の集中が加速することで、県内の医師不足が顕在化することが見込まれる。
- (2) 中山間地域においては、地方の基幹病院の医師不足により、サービス供給停止・縮小を余儀なくされ、都市部に比べてより速く、医療基盤の維持が困難になることが予想される。

【新病院開院までの流れ】 ※ スケジュールは現時点の想定

拠点ビジョン → 基本構想 → 基本計画 → 基本設計 → 実施設計 → 建設工事 → 開院  
2022年3月      2022年11月      2023年9月      2024～2027年      2027～2030年      2030年

### 3 概要

#### (1) 対象者

県民、医療関係者等

#### (2) 実施内容（取組状況）

##### ア 高度医療・人材育成拠点推進会議

高度医療・人材育成拠点の構想に関して、関係者間での情報共有・意見交換等を行うため、第3回会議を開催し、高度医療・人材育成拠点基本計画の変更について説明を行った。

【構成員】基幹病院、各種指定医療機関、再編対象医療機関、医療関係団体、職能団体、診療科医会、圏域地対協、行政機関（97機関）

【開催日】第3回会議（令和7年11月21日（金）Web開催）

【主な説明事項】高度医療・人材育成拠点基本計画の見直しについて

【主な意見】

区 分	内 容
「高度医療・人材育成拠点」の整備に向けた取組状況について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後人口減少により、看護師を含めたパラメディカルスタッフの人材確保が困難になることが予想される。</li> <li>・近年では新薬の導入などによって材料費率は上昇傾向にあり、収支を考える上で、そのようなトレンドを踏まえることが重要である。</li> </ul>

イ 県民公開セミナー

高度医療・人材育成拠点基本計画について、県民の理解促進及び機運醸成を図るため、医療再編や新病院に関連するテーマに基づき、大学講師等の講演やパネルディスカッションによるセミナーを開催した。

【日 時】令和7年11月16日（日）13時～15時開催

【会 場】広島県医師会館ホール（広島市東区二葉の里三丁目2番3号）

【主 催】広島県／【共 催】一般社団法人広島県医師会、株式会社中国新聞社

【内 容】※ Web視聴可（YouTube配信）

テーマ	救命救急～新しい病院が担う救急の役割～
座長	志馬 伸朗（広島大学大学院救急集中治療医学 教授）
県の取組説明	渡部 滋（広島県健康福祉局 医療機能強化担当部長）
講演	世良 俊樹（県立広島病院救命センター救急科 主任部長） 岡野 里香（広島市立舟入市民病院 副院長） 大下慎一郎（広島大学大学院救急集中治療医学 准教授） 魚谷 啓（広島県医師会 常任理事）
パネルディスカッション	モデレータ：座長 回 答 者：全講演者、松永真雄（広島市消防局警防部 救急担当部長）
参加人数	195名（会場140名・YouTube最大同時接続数 55名）

※敬称略

【主な質問とパネルディスカッションにおける回答】

質 問	回 答
病床数を1000床から860床への見直しは、医療需要によるものなのか、建築費高騰による予算の関係なのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開院時の病床数の見直しについては、入院受療率が近年低下傾向にあるという医療需要の変化のほか、国の医療政策における急性期医療に関する要件や位置づけの見直しなどの情勢変化を踏まえたものである。なお、基本計画の見直しに当たっては、建築費高騰への対応も考慮した。</li> </ul>
計画の見直しによって、機能に関する当初計画とのズレは生じないのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見直し後も、当初計画で掲げた新病院の理念や果たすべき役割を損なわないことを前提に、全国トップクラスの規模の重症系病床や手術室を備えるほか、感染症病床の設置や県立がんセンターとしての役割を充実させる観点から緩和ケア病棟を設置し人材育成を行うなど、医療機能の一層の強化も図っている。</li> </ul>

県外からを含め、若い医師をどのようにして集めるのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手医師は知識や技術を高められトレーニングが積める環境を望んでおり、また、ワークライフバランスも重視する傾向も伺える。このため、症例の集積や研修プログラム・指導体制の充実のほか、働きやすい環境や制度、多様な学習機会など魅力的な環境を整え、医師や医療従事者の確保・育成を進める。</li> </ul>
<p>(パネルディスカッション)</p> <p>救急搬送困難の状況において考えるべきこととして何があるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療資源の集約と機能分化、連携により地域全体でのエコシステムを考えることが重要。</li> <li>・医療資源は限られるので、救急車を呼ぶべきか迷う場合は#7119等電話相談を活用してほしい。</li> <li>・舟入市民病院では、大学、開業医、勤務医など、多くの小児科医が集まって救急対応しており、新病院でもそのような開かれた病院にしてほしい。</li> </ul>

<セミナーホームページ>

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/koudoiryou-jinzai/seminar711.html>

(※県民公開セミナーにおける講演や新病院に関する県からの説明動画、県民からの質疑応答などを掲載)



ウ 新病院整備に係る医師会との意見交換会

高度医療・人材育成拠点の整備にあたり、令和7年度第1回会議を開催し、基本計画の変更についての説明及び急性期病院における再診患者の逆紹介を行う上での課題について情報共有・意見交換等を行った。

【構成員】 各医師会、再編対象医療機関

【開催日】 令和7年度第1回会議（令和7年11月7日（金）開催）

【主な説明事項・議題】

- (1) 基本計画の変更について
- (2) 急性期病院における再診患者の逆紹介を行う上での課題

【主な意見】

区 分	内 容
地域における病診連携について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期治療後に病状が安定した患者の診察について、かかりつけ医である診療所と急性期病院の双方が定期的に診療を担当する病診連携の取組が全国的に広まりつつあり、これは患者と診療所にとって大きな安心感を与える体制だ。</li> <li>・シームレスな病診連携を構築するためには、急性期病院と診療所の医療機能について、互いに情報共有を行っていく必要がある。</li> <li>・泌尿器科や耳鼻科、皮膚科などの診療科では、診療所において受け入れにくい病状の患者も存在するため、急性期病院からの逆紹介においては、きめ細かい対応を必要とする。</li> </ul>

エ 令和6年度病院機能評価の実施

令和6年度の県立病院の取組内容等を定めた、第7次広島県病院事業経営計画について、有識者による意見を取りまとめ、評価を行った。

評価項目は医療の安全と質の向上、医師の確保・育成、決算の状況など 22 項目（安芸津病院は 19 項目）。結果の詳細は報告書として公表予定。

【各項目の評価】（一部抜粋）

取組方針ごとの評価(広島病院)				取組方針ごとの評価(安芸津病院)			
取組方針／取組項目		自己評価	総括評価	取組方針／取組項目		自己評価	総括評価
医療機能の強化				医療機能の強化			
医療の安全と質の向上	○医療安全の確保	○	○	医療提供体制の強化	○専門医療の充実 ○政策医療の提供	○	○
	○医療の質の向上	○	○		○予防医療の推進 ○在宅療養支援の充実	◎	◎
人材育成機能の維持				人材育成機能の維持			
医師の確保・育成	○医師の確保・育成	○	○	医師の確保・育成	○医師の確保・育成	○	○
患者満足度の向上				患者満足度の向上			
患者満足度の向上	○患者満足度の向上	○	○	患者満足度の向上	○患者満足度の向上	○	○
目標指標				目標指標			
決算の状況		△	△	決算の状況		△	△
総合評価			○	総合評価			○

【有識者からの主な意見】

評価対象	意見
広島病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>県全体も広島都市圏も、さらなる人口減少と高齢化は避けられないもので、従来どおりの病院経営での状況改善は難しく、新病院計画を踏まえ、強みとする診療機能への重点化と人材集約が必要。</li> <li>支出減に向けた職員全体での意識改革を期待する。</li> <li>厳しい経営環境の中で、種々の経営課題に着実な対応を図られていると感じた。</li> </ul>
安芸津病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>安芸津病院に求める機能と、地元自治体で整備していく機能との役割分担を明確にし、その全体像の中で、安芸津病院は強みある分野に人員と機能を集中していくべきである。</li> <li>公的な病院としての役割と政策医療コストの関係について原価計算分析などを実施し、県民への丁寧な説明を行うことを進めてもらいたい。</li> <li>周辺地域の人口構成を踏まえた体制整備をさらに進め、患者の受入を増やす中での収支均衡策を検討いただきたい。</li> </ul>

(3) 予算額（一部国庫）

令和7年度当初予算額 67,073,308 千円（債務負担行為額 1,249,000 千円）

(4) その他

高度医療・人材育成拠点の整備について（広島県 HP）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/276/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten.html>

（※高度医療・人材育成拠点基本計画や基本構想、各種会議資料などを掲載）



地方独立行政法人広島県立病院機構について（法人 HP）

<https://hpho.jp/>

（※機構概要、病院紹介などを掲載）

